

二〇二四年度 推薦入学者選拔

教育学部学校教育課程 国語専修

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

① 生きていることは、人生と生活の二つの側面からとらえられる。ふつう、ひとはそのどちらか一方だけを考えて生きてはいけなくところ、ときにこの両者のバランスがどうしようもないほど崩れることがある。どんな崩れ方をするかは、想像がつくだろう。人生が大きくなりすぎて生活が押しつぶされることは、あまり多くない。圧倒的に、生活が人生を押しつぶしにかかるのである。目の前の生活への対応に忙しくて、人生を考える余裕を失ってしまうことが多い。

話が鮮烈な印象をもたらしたのは、わたし自身が余裕を失っていたからにちがいない。その天文愛好家の話を聞く会は、空気の澄んだ秋、紅葉の美しい山間の建物で行われた。

「みなさん、家路につくときに空を見上げることがあります。見上げても一銭の得にもなりませんね。でも、あなたの頭上には、無数の美しい星が輝いているのです。少しの間、首をめぐらして空をご覧になってはいかがでしょうか。ころばないようにアスファルトの道路だけ見つけて歩くより、頭の上に輝いている美しいものを気に留めて歩いた方が、毎日が楽しくなると思いますませんか」

彼はそう話を切り出した。アスファルトの道を見つめながら、あと何分で駅に着ける、家に着けると足早に急いでいたわたしだった。話を聞いた瞬間、わたしはとんでもなく損をしていたような気にさせられた。まわりの何ものにも目をくれず、足を早めて歩くことで、わたしは何を得てきたのだろう。話は続いた。

「毎日のように夜になると頭の上にある美しいもの、それを意識して生きると、無意識にもそういうものから目をそらして生きるのと、どちらが豊かでしょう。わたしは夜空を愛するようになって久しいのですが、そのことで物質的に得たことは何もありません。でも、わたしはやっぱり空を見、望遠鏡をのぞきたいと思っています」

宇宙の神秘に向かい合っている彼の幸せを思った。星だけではない、月も、花も、鳥も、夕焼けも、雲も……、目に入ってくるいろいろな美しいものを、わたしは本当の意味で見えていなかったような気がした。

それから程なくしてのことである。わたしは自分の一日を俳句で記録することを思いついた。一日に三句の俳句をつくることにしたが、これは意外に大変であった。大変なわりに、俳句はほとんど上達しなかった。それでも、わたしが一年あまり俳句づくりをやめなかったのには理由がある。俳句をつくるようになって、わたしは、自分のまわりにあった季節を彩るものを意識できるようになっていった。今まで見過ごしにしていた季節季節の風物などに目を向けることを、大切なことだと感じるようになっていた。星を愛する彼の話の影響であった。アスファルトのわきにある草花、木々のようす、樹間を飛ぶ鳥、虫の営み、そういうものに目を向け

ることの豊かさが少しわかったように思った。電車の中でも、疲れて見える人の顔をながめ、自分も同じような顔をしているのだらうと想像したり、その日のスケジュールを頭のなかに入れることに終始していた貧しい日常が、少しずつ変化していった。車窓の枯田がみるみる青く変化していくさまに驚いたり、沿線の家の中に咲く花が桃なのか梅なのかなどと考えたり、線路のわきに咲く水仙や菜の花に目を奪われたりした。

名を知らぬ花を名を知らぬままに美しいと思ったりもしたが、言葉の働きは玄妙けんみょうなのだった。「山笑ふ」という季語がある。明るい春山のたたずまいを形容した季語である。冬の山の場合は「山眠る」という。「山笑ふ」という言葉を知り、薄く緑がかってくる山を見ていると、かたい眠りに閉ざされていた山がようやく眠りから覚め、微笑ほほえんでいるように見えてくるから不思議であった。「初桜」にはじまって桜にまつわる季語はたくさんある。なかでも「しべ桜」とか「桜しべ降る」という季語には、目を見開かされる思いをもった。兼好は「花はさかりをのみ見るものは」とはいつたが、散ってしまった後の桜の「しべ」にまでは言及していなかったように思う。一気にばあつと咲いて、あつという間に散っていく桜を日本人はこのほか好み、あの戦争のときには「桜のように潔く」ということで、多くの若い命が散っていった。しかし、日本人の美意識は、そこにどまるものではなかった。花の終わったあとの桜、しべを降り注ぐ桜にも目を注いでいたのだ。そういう思いで、今まで見向きもしなかった花の後の桜をいとおしんだ。春だけでなく、どの季節にも似たようなことがあった。すべては、俳句がわたしにもたらしてくれた贈り物である。自分のまわりの世界が、前より少し美しく見えるようになっていた。

(村上慎一『なぜ国語を学ぶのか』による)

【設問】

問1 傍線部①「生きていることは、人生と生活の二つの側面からとらえられる」とあるが、筆者は「人生」と「生活」をそれぞれどのようなとらえているか。本文の内容に即して、それぞれ二五字以内で答えなさい。

問2 この文章から「短歌や俳句を学ぶ楽しみ」について読み取り、国語の教師を目指す者としてどのように世界を見ればよいと考えますか。文中の傍線部「本当の意味」「言葉の働き」の二つの言葉を用い、自らの具体的な体験も交えて五〇〇字以内で論じなさい。

2024 年度 推薦入学者選抜
教育学部学校教育課程 社会専修

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

「歴史は繰り返す」という有名な言葉がある。

ことに戦争という人類史上もっとも愚かな行為が何度も繰り返されてきていることは、悲しい事実である。

なぜ、人類は戦争という行為を繰り返してしまうのか。

領土拡張、経済的発展、民族の誇りなど、いろいろな理由をあげることができる。しかし、同朋の死、国同士の敵対関係の永続性、地球環境の破壊など、デメリットの方が多いことも自明である。権力者が一時的な勝利の美酒に酔いしれるために戦争が行なわれるというならば、人類は愚かな生き物としか断じることができない。

しかし、権力者の個人的な要因による戦争の発生以外にも、なんらかの大きな原因が、それぞれの戦争には存在するのかもしれない。また、各戦争に共通性があり、独自の原因が存在するのかもしれない。もちろん昔話として過去の戦争を眺めた時、たいていの場合は愚かな権力者が感情を制御できずに、戦争をしかけていることが多い。だが、戦争は権力者一人ではできない。権力者の決断を支持する国民が存在したことも事実である。そして国民が戦争を支持する社会的状況というものが歴史には存在するはずである。そうした個々の要因を明確にして、共通の要素との関連を明らかにしていけば、ひょっとすると我々は戦争を回避する方法も見つけられるのかもしれない。歴史学は、そのために存在しているともいえよう。

（中村修也『天智朝と東アジア 唐の支配から律令国家へ』NHK出版、2015年）

【問題】（解答は横書きとする）

上記の文章を読み、かつ2022年に起こったロシアとウクライナの戦争を踏まえて、自分が教師だった場合、「戦争」というものについてどのように生徒に指導していくかを1200字以内でお書きください。戦争については否定であっても、肯定であってもかまいません。日本の場合、第二次世界大戦を踏まえて子どもたちに説明をしてください。その際、「国家」「国民」「憲法九条」「国防」「原子爆弾」の用語を必ず使ってください。

2024 年度 推薦入学者選抜
教育学部学校教育課程 数学専修

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

次の文章は、1700 年ほど前に古代のアレクサンドリアで数学者として活躍したディオファントスの方程式の解き方を紹介したものである。設問 1、2 に答えなさい。

以下、文中の*はいずれも「辺の長さの和」を意味している。

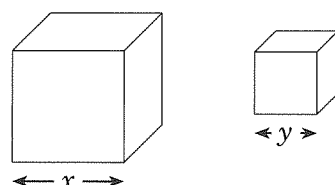
ディオファントスはまず一般的な言い方で述べている。

与えられた数を二つの立方体に分けて、辺の和*が決められた数になるようにすること。

続いて、二つの数が示される。

与えられた数は 370、辺の和*は 10。

幾何学的には、大きさの異なる二つの立方体を扱う問題である。現在の代数学では、二つの立方体の一辺を x と y で表すかもしれない。



二つの辺 (x と y) の和は 10 である。二つの立方体の体積 (x^3 と y^3) を足すと 370 になる。したがって、方程式が二つ成り立つ。

$$x + y = 10$$

$$x^3 + y^3 = 370$$

最初の等式より、 y は $(10 - x)$ に等しいので、二つ目の等式に代入すれば

$$x^3 + (10 - x)^3 = 370$$

となる。 $(10 - x)$ と $(10 - x)$ と $(10 - x)$ の積を計算して、 x^3 の項が消えるかどうか試そう。

$$x^3 + (1000 - 300x + 30x^2 - x^3) = 370$$

うまく消えそうなので、もう少し変形して次の式を導く。

$$30x^2 - 300x + 630 = 0$$

左辺の三つの数の公約数 30 でそれぞれ割って次の式を得る。

$$x^2 - 10x + 21 = 0$$

終わりが見えてきた。この先、二つの解き方がある。2 次方程式の解の公式を覚えていればそれを使えばよい。あるいは、最近この手の方程式を解く練習をしたなら、式をじっと見て次のように因数分解できるまで考えてもよい。

$$(x - 7)(x - 3) = 0$$

したがって、二つの辺の長さは 7 と 3 である。確かに、二つの辺の和は 10 になり、それぞれの立方 343 と 27 を足すと 370 になる。

ディオファントスは私たちとは違う方法でこの問題を解いた。というより、同じ方法では解けなかったのである。ディオファントスは単独の未知数を表す記法しか使えなかったが、問題には複数の未知数がよく出てくる。巧みな方法でこの制限を乗り越えているのだ。ディオファントスは、二つの立方体の辺に未知数を x 、 y と割り当てずに、二つの辺が $(5 + x)$ と $(5 - x)$ であると述べている。二つの辺はともに一つの未知数 x で表され、2 辺の和は確かに 10 となっている。こうすれば、各辺の立方の和が 370 に等しいとおける。

①

今まで出てきた式より扱いにくく見えるが、3 乗を展開すると項がたちまち消えて、次の式が残る。

②

簡単な変形をして再び 30 で割ると、さらに簡単化できて

③

となる。つまり x は

④

 である。二つの辺は $(5 + x)$ と $(5 - x)$ なので、確かに

⑤

 と

⑥

 である。

(チャールズ・ペゾルド著 井田哲雄他訳『チューリングを読む』日経 BP 社による)

設問 1 ①～③に適切な式を、④～⑥に適切な数を補いながら、この与えられた問題を解きなさい。

設問 2 高校での数学の学習を振り返り、問題に対する複数の解決方法を比べた経験について、問題と複数の解決方法を列挙して、その学習から学んだことを記述しなさい。

2024 年度 推薦入学者選抜

教育学部学校教育課程 理科専修

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

問題 1 オーロラとは、北極や南極付近で発生する大気の発光現象です。オーロラについての以下の文章を読んで後の問に答えなさい。

オーロラほど不思議な光はない。冷たい炎のような光が色を変え、形を変え、音もたてずに空を舞う姿の圧倒的な不思議さには、驚きと畏怖の言葉が尽きない。実際に、天を自由に暴れまわるオーロラを仰ぎ立ち尽くしていると、その正体を探ろうというのは大それた考えであって、動物の一種である人間が触れてはいけない神秘のように感じることもある。ミジンコになったような気持ちになる。

しかし、ひとしきり時間が過ぎれば、あの不思議な光はどこからくるのだろう、一体どこで何が光っているのだろう、と考え始めてしまう。

オーロラの光はどこからくるのだろう。鳥になって一気にオーロラまで羽ばたき、手に取って確かめるのが手っとり早いと錯覚してしまうかもしれない。しかし、残念ながら、鳥どころか飛行機でさえ、オーロラには遥か遠く及ばない。

では、オーロラの光っている高さを知るには、どうしたらよいのだろう。

地上からオーロラの高さを知るには、図1のように三角測量で測定すればよいはずだ。しかしそれでも、オーロラの高さは、つい100年前まで正確な測定ができなかった。オーロラの高さの精密な三角測量をするためには、現代の私たちが普段から使っている、ある装置の発明が必要だったのである。

オーロラの高さを求めるべく、ステルマー^{※1}が使ったのは電話だった。当時の最先端技術であった電話を駆使して、新宿と立川くらいの距離、20 km も 30 km も離れた弟子と連絡を取り合いながら同じオーロラの写真を同時に撮影し、オーロラの高さの精密な三角測量を何度も何度も繰り返したのだ。その写真乾板は4万枚を超えるというから超人である。そうして、オーロラが地上から100 km、高いものでは1000 km というような驚くべき高さで光っているということを、とうとう突き止めたのだ。

さて、これでオーロラの高さはわかった。そんなに高いところで光るオーロラは、いったい「何が」光っているのだろう。

オーロラの光る高さまで、少しずつ高度をあげていくことにしよう。たとえば山を登ると空気が薄くなる。おやつ的に言えば、ポテトチップスの袋がパンパンになる。物理的に言えば、ポテトチップスの袋を押さえつけている気圧が低くなる。この空気は、窒素分子が8割、酸素分子が2割である。

しかし、この8割2割というバランスが保たれているのは、高さ80 km ほどまでだ。ここから先は、いわば空の終わりである。空気よりも軽い酸素原子が一気に増え始める。そして、高さ100 km を超える宇宙空間になると、酸素原子が大気の大部分を占めるようになる。高さ400 km の国際宇宙ステーションまで行けば、気圧は地上の1000億分の1にまで低下する。^①ほとんど真空だ。オーロラが光るのは、そんな空の果ての宇宙空間なのである。

ほとんど真空の状況に置かれた酸素原子は孤独だ。まわりに仲間の酸素原子はいない。気圧の高い地上で酸素分子だったときはよかった。まわりを見渡せば仲間の酸素分子たちに溢れ、ちょっとしたイライラも仲間にぶつ

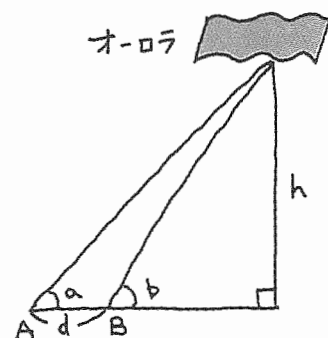


図1 オーロラの高さの三角測量。
オーロラの高さ h はA地点とB地点の距離 d と仰角 a と b から求められる。

かることで解消できた。しかし、いまは違う。自分がだれかから叩かれて受けたエネルギーは、自分で解消しなければならない。

私たちはカラオケで熱唱することで、カロリーやストレスを解消できる。一方、空の終わりの孤独な酸素原子は、いったんエネルギーを受けとめてしまうと（励起状態）、仲間とぶつかってエネルギーを失うこともできず、その余分なエネルギーを緑や赤の光として放つことでしか元（基底状態）に戻れない。そう、オーロラの緑や赤は、酸素原子がエネルギーを受けたときに、自然に出てくる色なのだ。

緑の光を放つには0.7秒かかるが、赤の光を放つには110秒の時間がかかる。したがって、オーロラの赤は、緑が光る場所よりももっと真空に近い、110秒ほど励起状態のまま仲間と会わずに漂うことができるほど空気がア状況、つまり、よりイ場所でないと光ることができない。ウが赤くエが緑という、あのオーロラのクリスマスカラーは、酸素原子が作り出したグラデーションだったのである。

それでは、オーロラは「なぜ」光っているのだろうか。つまり、空の終わりの酸素原子や窒素分子たちを叩くエネルギーは何であり、どこからくるのだろうか。いよいよ、オーロラのベールに包み隠された、壮大な物語の入り口が近づいてきた。

今から約270年前、江戸時代の寛保元年のこと。温度の「摂氏」で有名なスウェーデンの天文学者セルシウスの助手ヒオルターは、次のような日記を残している。「オーロラが磁針の動きと同時に現れるなどとは考えもしなかった。私がそれに気づいたのは、1741年3月1日のことであった」。明るいオーロラが出ているとき、方位磁針がわずかに向きを変えるということに、彼は気づいたのだ。

それから約80年がたった1820年、コペンハーゲン大学の物理学者エルステッドは、電流の流れる導線のそばに方位磁針をおくと、その針が動くということを発見している。

オーロラが出ているときにコンパスが揺れ動く、つまり磁場が乱れるという事実と、磁場と電流はつねに関係している、という物理法則を組み合わせると、あるヒントが浮かびあがってくる。オーロラと磁場が関係していて、磁場と電流が関係している。つまり、オーロラと電流が関係しているのではないか、ということだ。

ところで、電流はどこからくるのだろう。私たち現代人が使う電流についていえば、たいていが発電所から来ている。自分で発電できる電気うなぎとはまるで事情が違っている。私たちは、1基あたり100万kWほどの電力を生み出す発電所を世界中にたくさん作り、その発電所から電流の流れている電線を張り巡らせることで、便利な暮らしを送ることができるのだ。

ところが、地球から少し離れた近場の宇宙は、むしろ電気うなぎのように、10億kWもの電力を自分で発電していることがわかっている。そしてその電力は電流として、特にオーロラオーバル^{※2}に集中的に流し込まれる。そう、空の終わりの酸素原子を叩くエネルギーの正体は、この電流なのだ。この大電流、すなわち猛スピードで流れる大量の電子が、酸素原子にぶつかることで、酸素原子が励起されていたのである。

※1 ステルマー…カール・ステルマー。オーロラの高さを突き止めたノルウェーの科学者。

※2 オーロラオーバル…北極や南極を楕円状にとりかこむ、オーロラがよく出現する領域。オーバルとは楕円形のこと。電子は磁場に巻きつく性質があり、地磁気にそって極地方に流れ込んでくる。

問 1 図 1 にもとづき、A 地点と B 地点の距離 d 、それぞれの場所での仰角 a 、 b を用いて、高さ h を表す数式を導きなさい。

問 2 空欄 ア ～ エ について、最もふさわしいと考えられる語句を下から選び記号で答えなさい（複数回選択可）。

a. 濃い b. 薄い c. 高い d. 低い e. 上 f. 下

問 3 下線部①について、「オーロラが光る」ためには、なぜ記述にあるような空間でないといけないのか、本文に即して簡潔に説明しなさい。

問 4 本文にもとづいて、オーロラが光るメカニズムを 100 字以内で簡潔に説明しなさい。

問 題 2 以下の文章は、DNA の塩基配列の決定方法について書かれたものです。これを読んで、後の問に答えなさい。

現代では DNA の塩基配列が実験的に決定され、そのデータはデータベース管理者が悲鳴を上げるほどあふれかえっている。

さて、実用的な塩基配列決定法を最初に開発したのは、米国のギルバートとマクサムของกลุ่ม（1973 年頃）と、英国のサンガーのグループ（1977 年頃）であった。その後、実験の容易さなどの点で、サンガーの方法（サンガー法）が広く用いられるようになり、後に開発された DNA シークエンサーという自動の塩基配列決定装置もこの方法に基づいていた。ここではサンガー法の原理を説明しておく。

サンガー法では、酵素として DNA ポリメラーゼを用いる。塩基配列を決定したい鋳型に適当なプライマー（DNA 複製の起点となる短い 1 本鎖の RNA）を結合させて、相補鎖を合成していくのは、DNA のある部分のコピーを大量に合成する反応である PCR と同じである（PCR については〈参考〉を参照）。このとき、合成の材料となる 4 種類のヌクレオチド（塩基はそれぞれ A、T、G、C）に、特定の塩基に対応する少量のジデオキシリボヌクレオチド（塩基の種類を特定しない場合は ddNTP と記す）を加えておく。

図 1 にデオキシリボヌクレオチド（dNTP）とジデオキシリボヌクレオチド（ddNTP）の構造の模式図を示す。ここで「ジ」とは、「2 つ」という意味で、通常のデオキシリボヌクレオチド（dNTP）から、さらに 3' 部位のヒドロキシ基（-OH）が水素に置換されている。この部位のヒドロキシ基は、DNA ポリメラーゼが 5' から 3' 方向に伸長反応を行う場所であり、ここが水素であると、これ以上、デオキシリボヌクレオチド（dNTP）を付け加えることができず、合成がストップしてしまう（注：5' や 3' はヌクレオチド中の糖に含まれる炭素の番号。図 1 参照）。そのため、この ddNTP をターミネーターともよぶ。

さて、ここでこのジデオキシリボヌクレオチド（ddNTP）が少量混ぜられているところが重要で、合成のために取り込まれる位置が確率的に決まる（図 2）。すなわち、合成される鎖に C という塩基は何度も出てくるが、多数の鋳型分子に対して反応を行ったとき、ある分子では最初に出てくる C で取り込まれてそこで反応がストップし、また別の分子では次に出てくる C で反応がストップし、というようにして、いろいろな長さの相補 DNA ができるが、どれも最後の塩基が C であることは共通している。

もともとの大量の鋳型 DNA を 4 つに分けて、それぞれ別の塩基に対するジデオキシリボヌクレオチドを用いれば、それぞれ 4 種類の塩基で終わるいろいろな長さの DNA が得られる。これらの分子の長さをゲル電気泳動（注：水溶液中に電圧をかけ、DNA を分子量によって分離する方法）にかけると、1 ヌクレオチド単位の長さの差を検出できるので、4 つのレーンのバンド情報を総合して、塩基配列が読めることになる。バンドは、たとえば合成に用いるデオキシリボヌクレオチド

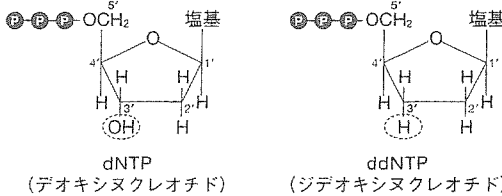


図 1 dNTP と ddNTP

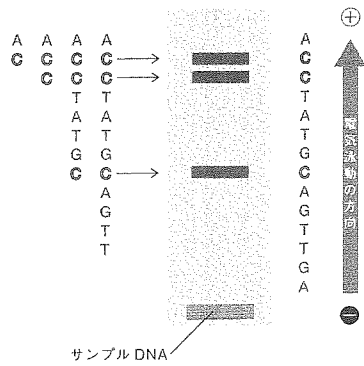


図 2 サンガー法の原理

ここでは ddCTP を使った場合を示す。これを 4 種類の塩基でやれば、塩基配列を読むことができる。黒い帯状の線はバンドと呼ばれ、その長さの DNA の存在を示す。

(dNTP) が放射性同位体を含んでいれば、容易に検出できる。以上がサンガー法のあらましである。

なお、サンガー法で注目してほしいことは、この方法を延々と続けていくわけにはいかないことである。サンガー法では確率的に ddNTP が取り込まれたところで合成が終わるので、いくら ddNTP の量を減らしたとしても、検出できる長さには自ずと限界がでる。その長さはおよそ 1000 塩基程度である。

それではもっと長い配列を読みたいときにはどうするかというと、近年は塩基配列決定がほぼ自動化されているので、ショットガン・シーケンシング(注1法 (ショットガン法) という、やや力任せの方法を用いることが多い。

ショットガン法ではまず読みたい DNA を大量に準備しておき、超音波などによって、ランダムな位置で切断して、得られた短い断片をまとめてクローニング(注2する。次にそれらを一つ一つ配列決定する。もとの DNA は多くのコピー数が用意されていたので、その切断部位も分子によって異なり、得られた配列をコンピュータで比較すると、重なり of 配列を連結していくことができる (図3)。読まれる DNA の性質にもよるが、もとの配列の長さの 10 倍程度の長さを読めば、多くの場合、連結された配列が全体をカバーする可能性は高くなる。

ただし、ヒトゲノムには様々な反復配列が含まれているので、連結作業は決して容易に済むとは限らない。大きめのゲノム配列を決定するには、非常に多くの組み合わせを調べる必要がある。ヒトゲノム計画では、これらの過程を自動化したシーケンサーがフル回転したが、現在では大規模なシーケンシングには次世代シーケンサーが専ら用いられている。

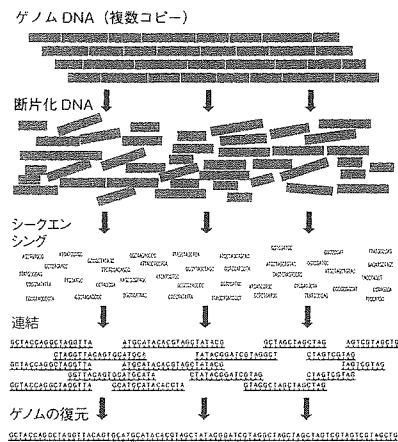
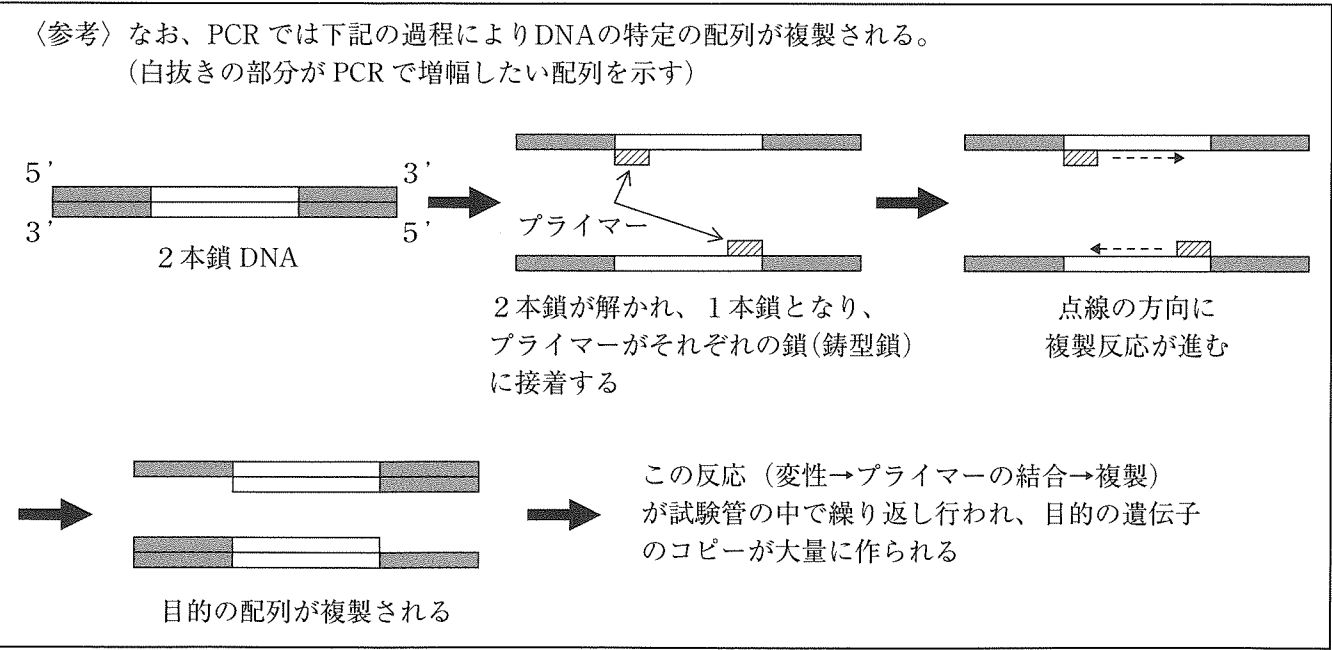


図3 ショットガン法の原理



注1) シーケンシング: DNA や RNA の塩基配列を解読すること

注2) クローニング: 目的の遺伝子など同一の塩基配列をもつ DNA 断片を得る操作

中井謙太著『新しいゲノムの教科書』講談社刊より (一部改変)

- 問 1 下線部 a に関して、PCR は鋳型鎖にプライマーを結合させることで、DNA 複製反応が起こることはサンガー法と共通である。一方で、サンガー法における相補鎖の合成と PCR における相補鎖の合成には違いも見られる。本文全体の内容を踏まえ、相違点について 80 字程度で説明しなさい。
- 問 2 下線部 b に関して、ジデオキシリボヌクレオチドが少量混ぜられているところが重要である理由について 100 字程度で説明せよ。
- 問 3 下線部 c の理由に関して、放射性同位体の特徴を踏まえて、100 字程度で説明せよ。
- 問 4 下線部 d に関して、なぜもとの配列の 10 倍程度の長さを読めば、長い配列であってもその配列を決定することができる可能性が高くなるか、その理由を 130 字程度で説明せよ。

二〇二四年度 推薦入学者選抜

教育学部学校教育課程 音楽・美術専修

教育学部発達教育課程

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

世の中には、問いのように見えて、実際には問いではないものがたくさんある。不満や不安、怒りや恐れや苦しみと共に発せられる問いは、多くの場合、問いではなく、拒絶、否定、非難、侮蔑、呪詛である。

「なんでこんなことしなきゃならないんだ？」は「やりたくない！」という拒絶であり、「なんでこんなのがいいんだ？」は「いいわけないだろ！」という否定、「何を言ってるの？」は「バカなこと言うな！」という非難である。「なんでこんなこともできないんだ？」は「無能な奴だ！」という侮蔑、「なんであんな奴がのうのうと生きてるんだ？」は「バチが当たればいいのに！」という呪詛である。

こうした問いは、実際にはそれが問いではないということだけではなく、「イヤだ」とか「ダメだ」とか「クソ」とか「アホ」とか、すでに答えが出ている。それなのに、解消されることのない不満と共に埒が明かない、問いとしてその人に付きまとう。そのせいできちんと考えることが妨げられている。

この状態から抜け出す選択肢は二つある。問うのをやめるか、問いを立て直すか、である。

問いではない問い、考えることのできない問いを考えられる問いに変えられないなら、もう問わないほうがマシだ。何でもかんでも問えばいいというものではない。

問う能力は、人によって違う。手に負えない問いというのは、誰にでもある。問わない、問いを忘れる、あきらめるということも重要だ。とはいえ、それとて簡単ではない。だから「どうしてそんなことを問うのか？」「その問いを問うことに意味はあるのか？」と問う。これで問いから抜け出せるかもしれない。

問うことをどうしてもやめられない、やめたくない、やめるべきでない場合は、もう一つの選択肢になる——問いを立て直すにはどうすればいいのか。

たとえば、「なぜ授業を受けなければならないのか？」（大人だったら「仕事」と言い換えればいい）というのを取り上げよう。これは、学校へ行って生徒たちから自由に問いを出してもらうと、よく出てくる問いである。本当に疑問に思っ出てきた問いかもしれないが、その背後にはしばしば「意味がないんじゃないか」「つまんない」「退屈だ」「できれば受けたくない」という不満や拒絶がある。

普通の答えは（とくに教師からの）、「受験に必要なだから」となるが、当然これで終わりにはならない。続いて生徒からは、「塾で習えば、学校の授業は必要ないのか」という問いが出てくる。あるいは、「自分が受ける大学ではこの科目（理系なら歴史、文系なら理科とか）は必要ないから受けなくていいか」となる。

教師としては、ここで手詰まりだろう。あるいは、「とにかく勉強しておけば、いつか何かの役に立つかもしれない」と、原理的には否定不可能なことを言うかもしれない。それなら「たとえば、どんな時？」と聞ける。さらに続けることはできるが、いずれにせよ、先生にとっては分の悪い問答だ。

だがここでは、教師をやり込めることが目的なのではない。教師がちゃんと答えられるかどうかも重要ではない。そうではなく、教師も含めていっしょに考えられるような問いになるかどうか、そこから哲学的な問いにしていくにはどうすればいいか、である。

ここでも、自分自身をその問いに結びつけてみるといい——「なぜ自分はその授業に意味がないと思うのか？」「なぜその授業を受けたくないのか？」——そんな問いに対してはどう答えるだろうか。「そもそもやっていることが分からないし、受験で不要だから分かる必要もないし、結局自分の人生には関係ない」

そこからさらに次のように問うことができる——「受験では不要でも分かるとためになる、人生には関係があるようなことは何か？」「それは不要だと思う科目（歴史や理科）について言えば、どのようなことか？」「それは学校で学べないか？ 学べないとすればなぜか？」「そもそも学校で学ぶべきことは何か？」「ある科目で学ぶ意義があるのはどんな

2024 年度 推薦入学者選抜
教育学部学校教育課程 体育専修

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

次の文章を読んで問いに答えなさい。

学習活動における評価とは、子どもの学習の結果を確認するとともにその要因である学習内容や学習計画の効用を省察して、学習の改善を図る活動である。その際、学習の結果を確認する方法はいろいろあるが、代表的なそれは相対評価と絶対評価である。相対評価では、子どもの学習の結果を学習集団の中での位置の変化から、例えば「クラスの上位〇〇%になった」といった評価をする。一方、絶対評価では、子どもの学習の結果を学習課題の達成度から、例えば「〇〇ができるようになった」といった評価をする。

ただ、相対評価には多くの問題が指摘されている。特に、学習集団によって評価が異なる問題がある。例えば、レベルの低い学習集団に所属していると、学習の成果が不十分であっても「上位者になった」という評価になってしまう。実は、相対評価は「知識や技能を適切に身につけたか」を確認することができない。そこで、今日の学習活動における評価では絶対評価が主流となっている。もっとも、絶対評価にも評価の観点や基準が適切でないと評価が揺らぐという問題がある。

さて、体育の学習では目標の一つに「体力の向上」があり、これを評価する方法として「新体力テスト」^(注1)が広く活用されている。本テストは、①8種目の運動能力の記録測定、②得点表から記録を1～10点に変換して合計点を算出、③判定表から合計点をA～Eの5段階で判定、という手順で各自の体力の確認と変化の評価を行う。しかし、本テストを使用した「体力の向上」の評価には不足を指摘せざるをえない。

まず、本テストは、一見すると、得点表と判定表を使用した絶対評価である。しかし、それらは全国から集めたサンプルの分布から作成したものであり、実態としては「全国の子どもを母集団としたら」という想定での相対評価である。ただし、この想定により「母集団によって評価が異なってしまう」という相対評価が持つ問題の一つを回避している。日本中、どの学校、どのクラスでも、同じ記録ならば同じ判定となる。そして、仮に、E判定からC判定に上がったならば、「自分の体力は向上していて、全国の子どもの中で下位から中位になった」と評価することができる。

ところで、A～Eの5段階の中でのC判定となる体力は「子どもが身につけておくべき体力」として充分なのであろうか、それとも不充分なのであろうか。本テストではこの観点の評価ができないことは明らかである。つまり、本テストは「『子どもが身につけておくべき体力』を習得できているかを評価する」という絶対評価の視点が不足しているのである。

もちろん、この不足を補わなければならないが、それは容易ではない。なぜならば、絶対評価に必要な適切な観点や基準を設定することが難しいからである。むしろ、これまで「体

力の向上」の絶対評価が行われなかった原因はそこにあるのかもしれない。私たちはこの課題の解決のため、まず「なぜ、体力が必要なのか」を深く議論する必要がある。すると、その議論の先に「子どもには、どのような体力が、どの程度、必要なのか」が見えてくるはずだ。

ところで、学習指導要領^(注2)において「体力の向上」という目標は1968年版から登場する。そこでは「強健な身体を育成し、体力の向上を図る」と提示されていた。さすがに「強健な身体を育成し」は次の1977年版では削除され、以降、「体力の向上」が今日に残る。しかし、その前の1958年版では「心身の健全な発達を促し、活動力を高める」と提示され、「体力の向上」という文言は見あたらない。体育の学習が目指すところは「体力の向上」なのか「心身の健全な発達」なのか、原点に立ち戻ってみる必要もある。

注1) 文部省（当時の名称）が1999年に従前の「体力テスト」の内容を変更したもの。

「新体力テスト」として発表され、20年以上が経った現在もそのように呼ばれている。

注2) 文部科学省が定めている学校の教育課程の基準。各教科については教科の目標や取り扱う内容などが示されている。

問1 全文の要旨を200文字以内でまとめなさい。

問2 著者の主張の主題に対するあなたの考えに基づいて、次の二題から一題を選択し、600字以内であなたの考えを述べなさい。

問2-1 著者の主張の主題に賛意や同意が強いならば、その理由を説明するとともに、あなたが教員を目指す学校種（小学校、中学校、高等学校など）の児童生徒に目を向けた「なぜ、体力が必要か」について、あなたの考えを述べなさい。

問2-2 著者の主張の主題に反意や疑問が強いならば、その理由を説明するとともに、あなたが教員を目指す学校種（小学校、中学校、高等学校など）での「『新体力テスト』のより良い活用方法」について、あなたの考えを述べなさい。

二〇二四年度 推薦入学者選抜

教育学部学校教育課程 家庭専修

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

ケア労働に関する、以下の文章を読んで、次の問いに答えなさい。

家庭内ケア労働——家事・育児・介護の分かち合い

男性のケア参加が強調される一つの理由は、それが女性の経済的自立や地位向上を促進するために不可欠だと考えられているからです。この場合の「ケア」は、主に家庭内で行われる無償労働としての家事・育児・介護などを指しています。

これまで、日本を含む多くの国や地域で、家庭外での職業労働を男性が務め、家庭内での家事・育児・介護などのケア労働を女性が務めるといった(a) () が行われてきました。しかし、後の節で述べるように、家庭外で行われる職業労働には賃金が支払われるのに、家庭内で行われるケア労働は賃金を得られない無償労働です。こうした分業体制のもとでは、男性には職業労働を担うことで経済的自立を果たすチャンスがより開かれてきたのに対して、家庭内でのケア労働の責任を負わされた女性には経済的自立の機会が大きく制限されてきました。

家庭内で無償で行われるケア労働を、女性だけに任せておくのではなく男性も分かち合う。それによって女性が家庭外の職業労働に従事する機会を拡大し、女性の経済的自立と社会における地位向上を促進できる。(b) まずはそうした観点から、家庭内での男性のケア労働参加が求められているというわけです。

ケアに関わる職業労働への参加

他方で、男性が「ケアする」ことは、女性の経済的自立や地位向上のためだけでなく、男性自身のためにも必要であることが唱えられています。例えば、先に紹介したEUの政策提言書(注)では、今や労働市場が「ケアする男」を求めていることを強調しています。一体これは、どういう意味でしょうか。

(中略) かつての工業社会では、筋力労働の需要が高く、労働市場には男性労働者に対する高いニーズがありました。ところが、産業構造が変化して情報やサービス中心の脱工業社会へと移行し、機械化も進む中で、男性に有利だった筋力労働の需要は大きく低下しました。他方で、家事の市場化や医療福祉・サービス部門の拡大により、看護・介護・保育や各種サービスに関わる仕事など、従来女性向きとされてきた配慮や世話といった広い意味でのケアを業務の核とする仕事の割合が増えているのです。

(中略)

世界のほとんどの地域、とりわけ日本では、労働市場全体で見れば、依然として男性の方が採用・待遇面で有利であることは明らかです。しかし、男性の中でも学歴や資格などの点でより不利な立場にある人々が、もしケアに関わる仕事を敬遠し続けるならば、

職に就けるチャンスはさらに少なくなってしまう。今後ますますケアに関わる仕事が増えていくとすれば、男性たちが従来「女の仕事」だとして拒否してきたケアに関わる仕事を積極的に引き受けるとともに、そうした仕事に必要なケア能力を培っていくことは、(c) 男性自身のためにも、また労働市場が必要な労働力を確保し、持続可能な社会をつくり上げていくためにも重要であるというわけです。

また、一般的に女性が多い職種では賃金が低く抑えられがちですが、ケアに関わる仕事に男性がより多く就くようになることが、女性も含めたそれらの職業で働く人全体の賃金の上昇につながり、ひいてはそれが女性の経済的自立や地位向上を後押しすることも期待されます。

(注) 文中の「先に紹介したEUの政策提言書」とは、「ジェンダー平等における男性の役割—欧州の戦略と展望」(二〇一二年)のことである。

(多賀太『ジェンダーで読み解く 男性の働き方・暮らし方 ワーク・ライフ・バランスと持続可能な社会の発展のために』による)

(1) (a) の () の中に入る言葉を六文字で入れなさい。

(2) 傍線(b)の文章の示す筆者の考える理由を一〇〇字以内で説明しなさい。

(3) 職業労働としてのケア労働について、具体的な職種名を三つ挙げなさい。

(4) 傍線(c)に示す著者の考えを読み、あなたの考えを具体的に、四〇〇字以上五〇〇字以内で述べなさい。

2024 年度 推薦入学者選抜
教育学部学校教育課程 英語専修

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

次の英文を読んで、後の設問に日本語で答えなさい。

Humans have never been as interconnected as they are now. Communicating with people from different linguistic and cultural backgrounds is now a part of everyday life for many people around the world. In Japan, too, opportunities for intercultural communication-through English, Japanese, and other languages-are clearly increasing. Against this background, intercultural competence is now seen as one of the most important attributes for success in this globalized world. Intercultural competence is much more than simply being able to speak a foreign language-it is a combination of knowledge, skills, and attitudes.

(Troy McConarchy, 古家聡, 桜井千佳子,
Intercultural Communication for English Language Learners in Japan. 南雲堂. 2017)

【設問 1】

本文の大意を日本語100字以内でまとめなさい。

【設問 2】

異文化間能力には、具体的にどのような能力が含まれると思いますか。また、その能力育成を目指した教育の在り方について、あなたの考えを日本語700字以内で論じなさい。

二〇二四年度 推薦入学者選抜

人間科学部 人間科学科・心理学科

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

大学生向けに書かれた左記の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

論文というものは、どうあるべきか。このことには、案外に共通理解がないかもしれない。分野によるだけではなく、皆さんの指導教員が研究者として育ってきた環境によっても、それこそさまざまな意見があるだろう。筆者の属する教育学の分野だけとつても、扱う範囲が非常に広いので、なかなか意見が一致することは難しい。したがって、ここで述べる三原則は、あくまで私・小笠原の原則であることを断っておく。

前にも述べたように、「論文」は、ただ単に調べてまとめるものではない。自分の「論」を立てて、それを相手に説得するために書かれるものである。私はそのように考えている。その意味で、これも先に述べたように論文は「こじつけ因果関係」である。しかしそれが相手を説得できるものであるならば、もちろん認められることになる。

自分の主張を認めさせるには、それが自分の論であることをこれまでの論との違いで示さなくてはならない。「富士山は日本一の山である」と主張しても意味がない（この逆ならば意味はあるが）。自分との違いを示すには、それまでの先行研究を十分に検討しなくてはならない。主張にあいまいな点や、常識の垢にまみれた前提に立った議論はないか。先行研究の中心的主張を引用して、その一文一文を一つ一つ検討する丁寧さが求められる。

さらに、自分の論を説明するとき、そして他の論を批判するときには、自分の論で現実をより明確に切り取れる、説明できるということを証明しなくてはならない。そのためには、具体的な事例で語る努力をしなくてはならない。いやしくも人の論を批判するのであるから、証拠もあげずに論難してよいはずがない。批判するときには、その相手の論理があてはまらない事実をきちんとあげなくてはならない。

最近の子どもが手先の器用さを失っていることの証明として、「マッチを擦れない」ということをあげる研究論文がある。しかし、ゲームの上手な子どもや携帯電話でメールを速く打てる子どもはいる。とすれば、この論者のいう「手先の器用さ」とはどのようなことであるのかを問わなくてはならない。もしこの問いに答えていないとすれば、その論文は根拠のない主張をしていることになる。

（中略）

アンケートや実験の前提となる理論の検討や、観察の視点の吟味をおろそかにしている卒論研究をあまりにも多く目にする。唐突に仮説が出てきて、検定をかけて有意差を出して、データの意味の考察もそこそこに、それでおしまいという論文がよくある。中には、ひたすら観察記録だけを並べる論文もみかける。そういった論文の多くが、前述のステレオタイプの結論を述べていることは興味深い。要するに筋肉運動ばかりをやっている、考えていないのである。

よく「机上の空論」というが、実際に実験・観察をしたからといって「空論」に陥らないということにはならない。自分がどんな見方をしているのか、どんな目で見ようとしているのか、それを十二分に吟味しないと「見れどもみえず」になってしまう。そうした自分の見方を反省的にとらえたものを「理論」という。

どんな統計にも、必ずなんらかのバイアスがかかったり意図が隠れていたりするものである。そうしたものであるという前提をもつてみる必要がある。しかし、それは容易なことではない。

とりわけ社会的な問題をあつかう統計については、どんな色眼鏡をかけているのか、つまりどんなバイアスがかかっているのかを問わないではいられない。自殺という人の死に関わる問題でも、警察庁と厚生労働省と文部科学省とでは、まるで違う結果が出る。

よほどの基本統計でもないかぎり、統計というものは、元来そうしたものだという前提で使っていないかなくてはならない。

以上、いくつかの論文作成上の問題を述べてきた。私が強調したかったのは、権威を無批判に受け入れたり、実験などの形式を表面的に真似て、論文の体裁を整えることにあまり心と頭脳を使わないでもらいたいということである。それでは、自分の思考をつくりあげるにつながらないからである。出来不出来ではなく、自分らしい論文を書くことが最も大切である。

「ではちゃんと結論まで至らなくてもいいのですか」と学生に質問されることがある。私は、「ここまでこのように考えて、このように検討してきたが、このような理由でまだ結論にまではいたっていない、というのも立派な結論です」ということにしている。そういう未完の結論にいたるまでの思考のプロセスがきちんと示されているのなら、それは十二分に意義のある立派な論文である。ともかく大切なのは、自分の思考・思想を創ることである。

（小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』による）

【設問】 よい論文とはどうあるべきかについて、筆者の主張を要約するとともに、よい論文を書くためにどのような学習が必要かについてあなたの考えを述べなさい。（800字以上1000字以内）。

二〇二四年度 推薦入学者選抜

人間科学部 臨床心理学科

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

【設問】 次の二つの出題の中から一つを選んで、七〇〇字から一〇〇〇字以内で論述しなさい。

論述にあたっては、自分の考えや主張を明確にすること。

選んだ出題の番号を解答用紙の出題欄に必ず記入すること。

〔出題一〕

「孤独」という言葉から、あなたはどんなイメージを思い浮かべるだろうか。

イギリスでは、国民の1割以上が孤独に悩んでいるという事態を受けて孤独担当大臣が任命され、日本国内でも孤独死が深刻な社会問題となっている。こういったことから、孤独に対してはネガティブなイメージを持つ人が多いのではないだろうか。

だが、孤独というのは、そんなに忌避すべきものだろうか。私は、孤独から逃げ出そうとする最近の傾向には、どうも違和感がある。人間というのは、そもそも孤独な存在であり、孤独を感じない人などだれもない。そして、孤独には、さびしく辛い側面もあるのは事実だが、豊かな孤独、創造的孤独というものもあり、孤独がもたらす恵みにも目を向けるべきだと思う。

(中略)

私は、心理学者として大学で多くの学生と会い、また多くの社会人と接してきた。その中で感じるのは、「多くの人たちは孤独を恐れ、ひとりの時間を活かすことができていない」ということだ。

私は心理学における「自己開示」の研究者でもあるので、心を打ち明けられる親しい相手がいることが心身の健康にとって非常に大切であるといったデータもたくさん見てきた。ゆえに、親密な絆の欠如が心身を蝕むというのは確かなことである。しかし、それは「ほんとうの絆が少なくとも一つあれば、人は強く生きていける」ということでもある。重要なのは、かかわりの数ではなく質だ。

(出典…榎本博明著(二〇一八)『孤独 ひとりのときに、人は磨かれる』クロスメディア・パブリッシング)

前頁で引用した文章で、著者は、否定的なイメージで捉えられやすい孤独には肯定的な側面もあり、それが豊かな孤独・創造的孤独として人に恵みをもたらすと述べている。また、前頁の引用文以外の文中で、著者は、昨今のつながり至上主義が豊かな孤独・創造的孤独を阻害しているとも述べている。①豊かな孤独あるいは創造的孤独の具体例を挙げ、それが人にどのような恵みをもたらすのか、また②豊かな孤独あるいは創造的孤独を阻害するつながりとはどのようなものか、あなたの考えを述べなさい。

〔出題二〕

戦争が人間の攻撃性の産物であることには、いろいろの問題があります。人間には攻撃性があり、それをある形で解放するのが戦争だと考えるとします。すると、たとえばダムの中に水があふれると、堰(せき)を切って流れ出すように、平和があまり続くと人間の心の中の攻撃衝動がたまってきて、それが戦争を求める、しばらく平和が続くと不可避的に戦争が起こるという考え方がされやすいわけです。しかし、このような考え方に対しては、戦争の必然性を肯定するものであり、戦争を正当化するものであるという批判が当然生じます。これは一般の人にとっては耐えがたい考え方です。攻撃性を人間の本性として認めることに強い反対が起こったのも政治的・社会的現象である。戦争Vと人の本能的衝動としてのA攻撃性Vを結びつける安易な論理が生じやすいからです。

(中略)

われわれは、日常生活では攻撃本能にきちんとふたをして暮らしているという面があります。そのふたをとる手続きは、正義のためとか、信仰のため、あるいは自由のためという手続きをとるわけです。そういう正当性がなければふたをとってはいけなさとされているのです。

ところが、一度攻撃性を発動すると一種の攻撃中毒が起こるようです。攻撃性を発動することが、人間にかなりの快感を呼び起こすことはたしかです。いったんそういう味を覚えると、正義のためとか自由のためというような大義名分がなくても攻撃的になり得

る、それが悪いことだということを知りながらもできるようにする、あるいはむしろ強迫的にせざるを得なくなるということになります。

(出典…福島章著(一九八一)『機械じかけの葦』朝日出版社より)

右の文章に出ている△攻撃性▽は戦争の例から始まっている。△攻撃性▽が発揮されるのは戦争に限ったことではない。戦争においても、また、それ以外の場面でも人間の△攻撃性▽が発揮されることがある。△攻撃性▽が発揮されていると考えられる具体例を、①現代の世界情勢の中で、②あなたの身近な場所での、それぞれから具体例を挙げ、それぞれに対するあなたの考えと、あなたなりのそれぞれの現象への解決策や、解決に向けたあるべきコミュニケーションの姿を述べなさい。

二〇二四年度 推薦入学者選抜

文学部 日本語日本文学科

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

次の文章は、批評家の小林秀雄と大学生との対話の一部であり、一般的に認められている学問・科学の方法を批判しながら、人間について考えることについての持論を主張していると考えられます。文章を読み、まず、「考える」ことに関して、文中に示されている一般的な学問の考え方と、それとは異なる論者の考えをまとめなさい。次に、大学入学後の自身の学びにも具体的に触れながら、「考える」ことについてのあなたの自身の考えを述べなさい。

小論文の冒頭にあなたの考えがわかるように適切な題をつけ、四五〇字以上六〇〇字以内（句読点や記号および段落のために生じる余白も字数を含む）で書きなさい。

では、「考える」という言葉について、^{注1}本居宣長がどう捉えていたか、ちょっとお話したい。「考える」ことを、昔は〈かむかふ〉と言った。宣長さんによれば、最初の〈か〉には意味はなく、ただ〈むかふ〉ということだ、と。この〈む〉というのは〈身〉であり、〈かふ〉とは〈交ふ〉です。つまり、考えるとは、「自分が身をもつて相手と交わる」ことだと言っている。

だから、考えるというのは、宣長さんによると、つきあうことなのです。ある対象を向こうへ離して、こちらで観察するのは考えることではない。対象と私とがある親密な関係に入り込むことが、考えることなのです。人間について考えるというのは、その人と交わることなのです。（中略）

ある方法があつて、その方法にしたがつて対象をいろいろに解釈するのが、今の学問的な〈考える〉という意味だね。（中略）宣長のやつたのは文献学、一種の古学^{注2}です。人間の書いた表現に対する学問です。それは要するに、人間を考えることです。人間というものは、遠くに対象化して、こちらから観察すればいいというわけにはいかない。

人間を考える時、人間の精神というものを考えなければならぬ。精神を考える時、どうしても科学の方法ではできない。その人と交わるしかないんだ。つまり、その人の身になってみるということだね。だから、考えるためには非常に大きな想像力が要ります。

一口に科学というけれども、科学の発明をした人とか発見をした人はみんな、長い時間をかけて、対象を本当の意味で考えてきたのです。自分の実験している対象と、深く親身に付き合ひ、交わってきた。君は何かを知っているつもりでいるかもしれないが、本当には知らないのだよ。本当に知るためには、浅薄な観察では駄目です。ある対象を観察するとか解釈する時は、一つの観点といるものが必要で、その観点に立って観察する、解釈する。だが、本当に知るためには、観点など要らないようにならなきゃ駄目

ではないかな。

「考える^{注3}葦」というパスカル^{注4}の言葉について、僕は書いたことがあります。パスカルは、人間はいろいろなことを考えるけれども、何を考えたところで葦のごとく弱いものなのだと聞いたかったわけではない。人間は弱いものだけれども、考えることができる、と言いたいわけでもない。そうではなくて、人間は葦のようなものだという分際^{ぶんざい}を忘れて、物を考えてはいけないというのが、おそらくパスカルの言葉の真意ではないかと僕は書いたのです。

物事を抽象的に考える時、その人は人間であることをやめているのです。自分の感情をやめて、抽象的な考えにすり替えられています。けれど、人間が人間の分際を守って、誰かについて考える時は、その人と交わっていますよ。〈子を見ること親に如かず〉というだろう。親は子どもと長いあいだ親身に付き合っているから、子どもについて知っているのです。この〈知る〉というのは、子どもについて学問的に考えたわけではない。本当の〈知る〉というのはそういうことだ。本当に〈考える〉というのは、そういうことなのです。

母親は子どもに対して、観点など持っていない。彼女は科学的観点に立って、心理学的観点に立って、子どもの心理を解釈などしていません。母親は、子どもをチラッと見たら、何を考えているか、わかるのです。そういう直観は、交わりから来ている。交わりが人間の直観力を養うのです。精神感應だとか、やかましいことを言わなくとも、僕らは感應しているのです。まるで千里眼みたいに、人間が一目でわかるということもあるのですよ。

注1 本居宣長……江戸時代の国学者・文献学者・言語学者・医師。『古事記伝』や、「もののあはれ」の考察で知られる。

「考える」の古語「かんがふ」は、「かむがふ」「かうがふ」とも表記され、その訓を当てる漢字には「考、勘、校、稽、験」などがある。その語源については諸説あり、本文中の説は『古事記伝』による。

注2 古学……ここでは、いわゆる「国学」を指していると考えられる。

注3 考える葦……葦はイネ科ヨシ属の多年草。自然界で最も弱い植物ともされる。「考える葦」は、パスカルの『パンセ』の一節。聖書「傷ついた葦」に由来するともされる。「考える葦」について、一般的には「自然の中で

の人間の孤独やか弱さと、思考する存在としての人間の偉大さや尊厳を言い表している」と解釈される。

注4 パスカル……17世紀フランスの思想家ブレイズ・パスカル (Blaise Pascal)。

小林秀雄講義『学生との対話』新潮社より

2024 年度 推薦入学者選抜
文学部 英米語英米文学科

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

以下の文章を読んで、後の二つの設問に答えなさい。

知り合いの青年に「本は読まないの？」と尋ねたら「ほむさんはダンスしないんですか？」と聞き返されたことがあります。読書は人生の必修科目でダンスは選択科目、というのはもう古い感覚らしい。

飲み会^注における「とりあえずビールで乾杯」やライフイベントとしての結婚が必修科目ではなくなったように、すべてが自由意思による選択科目という世界では、読書だけが特別ということもなくなるんだろう。

そう思いながらも、「読書は楽器やスポーツと同じように趣味の範囲であり、読んでも読まなくても構わないのではないかと改めて問われると、「賛成です」と答えることに不安と躊躇^{ためら}いを覚えます。

それはどうしてなのか、考えてみました。一つ思い当たったのは、読書という行為は言葉と密接に関わっている、ということです。

読書が「楽器やスポーツと同じように趣味の範囲」というのは、或^{ある}いはその通りなのかもしれない。「楽器」がなくても「スポーツ」がなくても、そして読書がなくても、生きてゆくことはできる。その意味では確かにいずれも「趣味の範囲」と云えそうです。

■生きてゆけるが

でも、言葉そのものはどうなんだろう。それも「趣味の範囲」なのか。いや、他者とのコミュニケーションに必要というだけではなくて、誰にも会わず一言も話さない日でも、私たちは心の中で無意識に言葉を使っています。それなくして生きることはできない、と思えるほどに。

映画などで、親から出生の秘密（「実はお前は私がお腹^{なか}を痛めた子じゃないの」とか「お前たちは本当は血を分けた兄妹なんだ」とか）を告げられた主人公がショックを受ける、というシーンを見ることがあります。

それまで信じていた世界が親の言葉によって覆ったのです。いや、正確にいうと覆ったのは世界ではない。何故^{なぜ}なら、親が子供に出生の事実を語る前と後で血の繋がり^{つな}や DNA が変化したわけではないから。その意味では、物理次元の世界は何一つ変わってはいない。つまり、親の言葉で覆ったのは世界そのものではなく、主人公の心の中の世界像ということになります。

■内なる言葉の塊

ならば、私たちが一つの共通の世界に生きているというのは実は錯覚で、本当は一人一人の内なる世界像を生きているに過ぎないんじゃないか。そして、どうやら言葉はそのことに深く関わっているらしい。

私がイメージしたのは蜘蛛と糸と巣^{くも}の関係です。蜘蛛が自分の糸だけで編んだ巣^{くも}の上で生きるように、我々も普段は意識しないけど、自らの内なる言葉（糸）が作り出した世界像（巣）の上で生きているんじゃないか。つまり、人間は言葉の介在無しに世界そのものを直^{じか}に生きることはできないんじゃないか、と。

逆に云えば、言葉によって世界像は書き換えられることになる。エスカレーターに立っている時、その横をガンガンと大きな足音を立てて降りてゆく女性がいます。その度に苛々^{いらいら}していたら、或る時、知人に「サンダル^{いらい}の構造上あんなっちゃう、カスタネットガールという種族なんです」と教えられました。すると、不思議なことに、彼女たちに出会っても「あ、カスタネットガール」と、むしろ面白く感じるようになりました。私が忍耐強くなったわけではなく、一つの言葉を知ったことによって世界像が変化したのです。

この例からも分かるように、読書という行為だけが内なる言葉を養うわけではない。でも、本が言葉の、すなわち他者の世界像の塊であることもまた確かです。私が読書に特別な意味を見出したくなるのはそのためではないか、と考えました。

（穂村弘「（ひもとく）番外編 読書は必要？ あなたの『世界』を変えるかも」

『朝日新聞』2017年4月16日、p.9）

注 グループで集まって酒を飲む会。「飲み会」で飲酒する人は、一杯目にビールを注文することが慣例だった。

【設問Ⅰ】

読書が必要だと筆者が考える理由を、200字程度でまとめなさい。

【設問Ⅱ】

自分の人生において読書は必要なものか、それとも必ずしも必要ではないものかを、まず書きなさい。そして、そのように自分が考える理由を2つ挙げ、合計600字程度で説明しなさい。ただし、読書が必要なものだと考える場合には、本文の筆者とは異なる理由を書きなさい。

二〇二四年度 推薦入学者選抜

文学部 中国語中国文学科

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

次の文を読み、後の問いに答えなさい。

横光利一は、編集者が原稿をとりに行くと、その場に待たせておいて、引き出しから原稿をとり出して読み返し、手を入れ始めたそうである。

書いてしばらくは引き出しに寝させてある。書き上げてすぐ読み返さないことについて、横光は、書いた直後はまだ創作の興奮がつづいていて、よくものが見えるようになっていない。平静にかえってからでないと推敲の意味がすくない。そう説明した、という。

ヘミングウェイが亡くなったあと、相当な量の未発表原稿があらわれて世間をおどろかせた。本にしようと思えばできたであろうに、どうして原稿のまま眠らせておいたのか。ファンは不思議に思った。

ヘミングウェイという作家は作品ができ上っても、すぐそれを発表するようなことはしなかったらしい。書き上げると、まず、銀行の貸金庫に入れて寝させておく。ある期間そうしておいてから出してきて推敲する。それで気に入ればよし、さもなければ再び貸金庫へ戻した。こういうことをして、ついに納得のいくところまで行かなかった作品が遺稿となったというわけである。

こういうことは、多くの人がしていることであろう。ヘミングウェイが貸金庫を利用したのはいかにもアメリカ的であるが、東洋の文人が篋底に秘めるのと同工異曲である。

推敲というのは、時間のからむ問題である。この言葉が中国の唐の詩人賈島かとうの故事に由来するのはよく知られている。「鳥は宿る池辺の樹 僧は敲く月下の門」という句を得た賈島は、この「敲く」がいいか、初案の

「推す」がよいかで迷いに迷った。考えあぐねているうちに韓退之かんたいしの行列につき当る。とがめられて事情を語ると、韓退之は「敲く」がよからうと言った、というのである。

賈島は寝させないで推敲をしようとしたらしく思われる。これがヘミングウェイや横光の例などと比べて違っている。本当の推敲とはヘミングウェイ横光式のものである。ご本尊の賈島は推敲の何たるかを、すくなくとも時間の要素がからむものであることを、しっかりと弁えていなかったのではあるまいか。それだからこそ、他人の行列にぶつかると夢中になつて考えても決着がつかねた。

韓退之の助言によつて「敲く」にきめたというのは、時間的距離を他人の目という空間的距離に移行させたものだと考えることもできる。推敲は本人が時間の軸において、つまり、しばらくたつてから行なうテキストの改変である。他人が空間的軸で行なう同種の改変のことは添削という。韓退之の助言は添削の一種だったのである。

わが国の短歌、俳句では、添削はいまなおごく普通に行われているが、一般に、近代文学においては、添削を受け容れる余地はないように考えられている。作品の改良はただ推敲だけによるほかはないかのごとくである。

ところが、必ずしもそうではないらしいのは、T・S・エリオットの『荒地』の例を見てもわかる。現在われわれの知っている『荒地』は、詩友エズラ・パウンドの徹底的な斧鉞ふえんを受けたものである。添削以外の何ものでもない。詩人自らでは、とうていこうした改変を敢行できなかったで

あろう。

興味あるのは、『荒地』のもとの原稿が詩人の生前すでに行方不明になっていたことである。添削を受けた方のテキストが傑作だとなれば、もとの形に用はなくなる。新しい異本は先行のテキストを排除、湮滅^{いんめつ}させる習性をもつということは前述したが、ここでもその発動が見られる。

原稿が紛失していたから、どの程度パウンドが添削したのかもはっきりしなかった。ところが、エリオットの没後、偶然に原『荒地』が発見されて、その実態が明らかになった。

とにかく、添削と推敲はきわめて近い関係にある。推敲を不要だという人はないが、添削は個性の否定になりかねないと、歌人、俳人の間でも疑問視する向きがふえている。もし推敲がいいのなら、添削もまた必要な改良になることを認めてもよいはずである。

原稿の下書きをつくるかどうか、もしばしば問題にされる。下書きを清書するときに、必然的に推敲が行われる。もともと清書は時間と労力を要するから、そちらに氣をとられて、肝心な表現の吟味がおろそかになるおそれはある。

清書をするときに下書きの表現を改める推敲も、かならずしも推敲したあとの形の方がいいとは限らない。はじめの考えの方がすぐれていることもあるから、推敲すべて可なり、ときめつけてしまうことはできない。微妙である。あまり手を加えていると、もとの表現にあった生きのよさが死んで、一種のデカダンスに陥る。

いずれにしても、推敲、添削は個人がテキストに対して加える時間的改変、修正である。すくなくとも推敲の必要を頭から否定する人はいないで

あろうが、推敲が筆者自らの手によってつくられる異本にほかならないと指摘されれば、意外に思う人もすくなくないと思われる。

外山滋比古『異本論』

注

横光利一 1898～1947 大正・昭和期の小説家。川端康成らと『文芸時代』を創刊し、新感覚派の中心として活躍。代表作に『機械』『紋章』『旅愁』など。

ヘミングウェイ 1899～1961 米国の小説家。「ロストジェネレーション（失われた世代）」の代表作家で、死と隣り合わせの現実に敢然と立ち向かう人間の姿を描く。1954年ノーベル文学賞受賞。作「日はまた昇る」「武器よさらば」「誰がために鐘は鳴る」「老人と海」など。

篋底に秘める 箱の奥深いところにしまいこむ。

賈島 779～823 中国、唐代中期の詩人。范陽（河北省）の人。字は浪仙。出家したが、韓愈に詩才を認められて、還俗。五言律詩にすぐれる。「推敲」の故事で有名。

韓退之 768～824 韓愈のこと。中国、唐代中期の詩人、文人。唐宋八大家の一人。字は退之（たいし）、号は昌黎（しょうれい）。李白と杜甫を尊敬し、詩風を継いで豪放な詩を作った。儒教の正統を継承する確信のもとに、儒教精神を表現すべき古文の復活を提唱し、当時一般に行われた駢文（べんぶん）に反対した。

T・S・エリオット 1898～1965 詩人、批評家。アメリカに生まれ、三九歳の時、イギリスに帰化。キリスト教的伝統に根ざした秩序の樹立を説

く。おもな作品は、詩「荒地」「四つの四重奏曲」、詩劇「カクテルパーティー」、詩論「批評論集」など。

斧鉞 文章に手を入れて直すこと。

デカダンス 虚無的、退廃的な傾向。

【設問】

問一 書き上げた文や詩に手を入れることを、「推敲」、「添削」というが、この文の筆者の考え方に基つき、その違いを、六〇字程度にまとめなさい。

問二 あなた自身が、読書感想文や宿題などで、文を書くときにどのようにまとめているのか。自らの体験に基つき、この文を参考にしながら六〇字程度で論じなさい。

2024 年度 推薦入学者選抜

文学部 外国語学科

「小論文」問題

受験番号	氏 名
番	

以下の文章を読んで、後の設問に答えなさい。答えは全て解答用紙に記入しなさい。

自分の言いたいことを相手に伝えるためには、その内容の意味を明確にすることだと述べましたが、意味を明確にするということは、すなわち対話の中で自分のオリジナリティを出すことにつながります。オリジナリティというと、何か突飛なもの、特異で変わったものというイメージがあるかもしれませんが、そうではありません。ここでいうオリジナリティ（固有性）とは、他からの借り物でない、自分のことばという意味です。

対話が自分の考えを明確にするという性格のものである以上、この問題は避けて通れません。なぜ対話で、自分の考えを明確にしなければならないかといえば、話す／語るという行為において、あなたがめざすものは、最終的には、あなたでなければできないものを求めるからです。これが、自分のオリジナリティを出すということです。

（中略）

この世界に、まったく同一の個人が二人といるはずはありません。どんな人でも人間であるかぎり、何らかのオリジナリティを持っているといえるでしょう。したがって、その人、つまりあなたの存在そのものが固有なのだといえることができます。

では、そのオリジナリティについてそれぞれの人がお互いに認識し、それを尊重できているかという点も必ずしもそうではありません。

このことを表現活動としてとらえたとき、忘れてならないのが、前節まで述べてきたとおり、テーマを自分の問題としてとらえるという観点です。つまり、対話という表現活動において大切なことは、それぞれ一人ひとりの活動にそれぞれのオリジナリティをどのようにして表現するかということになるわけです。言い換えれば、個人一人ひとりの中にあるものをどのようにしてそれぞれが認識できるようにするか、という課題なのです。

そのことを自覚的に行うために、対話という行為は、一人ひとりの「私」を通して行われなければならない、つまり「あなたでなければ語れないこと」を話すのだ、ということになります。これが、対話の中で自分のオリジナリティを出すということです。

このことにより、自分のことばで語られた内容は、必ずや相手の心に届きます。これが、話の内容の意味を明確にする、すなわち、わかりやすく話すということにつながるのです。

相手にわかるように話すことと、自分のオリジナリティを追求することは、一見矛盾する反対のこ

とのように感じる人もいるかもしれません。しかし、この二つは、それぞれバラバラに存在するものではないのです。

伝えたいことを相手にわかるように話すことが自分と他者の関係における課題であるのに対し、オリジナリティを出すということは、自己内の思考を整理・調整する課題であるといえます。この二つをどのようにして結ぶかということが、対話という活動の課題でもあります。

どんなにすぐれたもののつもりでも相手に伝わらなければ、単なる独りよがりになり過ぎません。また、「言っていることはわかるが、あなたの考えが見えない」というようなコメントが相手から返ってくるようでは、個人の顔の見えない、中身の無いものになってしまいます。一人ひとりのオリジナリティを、どのようにして相手に伝えるか、ということが、ここでの課題となります。

ここで、自分の考えを相手にも受け止めてもらうという活動が必要になります。これをインターアクション（相互作用）と呼びます。インターアクションとは、さまざまな人との相互的なやりとりのことです。自分の内側にある「伝えたいこと」を相手に向けて自らの表現として発信し、その表現の意味を相手と共有し、そこから相手の発信を促すことだと言い換えることもできるでしょう。

テーマを自分の問題としてとらえることで徹底的に自己に即しつつ、これをもう一度相対化して自分をつきはなし、説得力のある意見を導き出すためには、さまざまな人とのインターアクションが不可欠であるといえます。このインターアクションによって、今まで見えなかった自らの中にあるものが次第に姿を現し、それが相手に伝わるものとして、自らに把握されるとき、自分のことばで表現されたあなたのオリジナリティが受け止められ、相手にとっても理解できるものとして把握されたとき、対話は次の段階にすすむと考えることができます。

相手に伝わるということは、それぞれのオリジナリティをさまざまな人との間で認め合える、ということであり、自分の意見が通るということとは、その共有化されたオリジナリティがまた相手に影響を及ぼしつつ、次の新しいオリジナリティとしてあなた自身の中でとらえなおされるということなのです。これこそが対話という活動の意味だといえることができるでしょう。

（細川英雄『対話をデザインする－伝わるとはどういうことか』筑摩書房より）

【 設 問 】

本文の内容を踏まえ、あなたは今後どのような「対話という表現活動」を行いたいと考えるか。800字以上1000字以内で述べなさい（句読点を含む）。

2024 年度 入学者選抜試験問題

情報学部

学校推薦型選抜（公募制）

小 論 文

注意

1. 監督者の指示があるまで、問題用紙を開かないこと
2. 解答はすべて解答用紙に記入すること
3. 監督者の指示に従い、所定欄に、受験番号・氏名を記入すること
4. 机上には筆記用具・消しゴム・鉛筆削り・時計および受験票以外のものを置かないこと

受 験 番 号	氏 名

次の文章は、毎日新聞 2023 年 6 月 14 日夕刊に掲載されていた記事(「親子で学び」平日学校欠席可 Learning+Vacation=「ラーケーション」広まるか)である。この記事を読んで後の問いに答えてください。

「ラーケーション」。そんな耳慣れない言葉を使った休暇制度を愛知県が創設した。親子で過ごす時間を増やそうと保護者の休暇に合わせて子どもが平日に学校を休んでも欠席扱いにしないという全国初の試み。愛知県は全国に制度を広げたい考えたが、学校関係者から「子ども間で格差が出る」と懸念の声もあり、浸透するかは未知数だ。

◇愛知県が制度化 家庭の「格差」顕在化懸念

愛知県が創設したのは「ラーケーションの日」。ラーケーションとは、英語のラーニング(学習)とバケーション(休暇)を組み合わせた造語だ。

公立の小中高、特別支援学校に通う児童生徒は年3日まで取得が可能になる。各学校の管理規則にある「忌引」などと同じ扱いにするため、法改正は必要なく、導入するかどうかは市町村や学校ごとに判断する。今年の2学期(一般的に8月または9月から)にスタートする。

県教育委員会によると、ラーケーションを取得する場合は事前に学校への届け出が必要。休日の過ごし方に特に制限は設けていないが、県教委では「校外学習活動の日」と位置付け、子どもが保護者と一緒に博物館を訪れたり、陶芸に挑戦したりする「学び」の場にすることを想定している。

愛知県は製造業で働く人が全就業者の4分の1を占めるなど「ものづくり県」として知られる。製造現場では生産効率を上げるため、祝日を休日とせずに平日が公休日の従業員も多く、トヨタ自動車系の企業では、祝日の代わりに年末年始やゴールデンウィーク前後などにまとめて休みを取得する「トヨタカレンダー」と呼ばれる勤務体系が確立されている。

「経済団体、産業界からも、休日は親子でいろんな活動がしたいという要望がある」。大村秀章知事は3月、制度創設を発表した記者会見でこう述べた。「産業界は弾力的な有給休暇取得を奨励しているが(ラーケーションで)さらに定着していければ。日本一の産業県である愛知だからこそ、一歩先んじて(休日改革を)進めたい」と制度創設の意義を強調した。

トヨタ系企業で働き、幼稚園と小学生3人の子どもがいる男性(40)は「土日や夏季休暇は渋滞や施設の混雑で、出かけてもストレスがたまる。(休暇を取る)平日の閑散期に子どもと一緒に動けるメリットは大きい」と制度を歓迎する。

だが、教育現場では捉え方が少し異なる。

「詳細なシミュレーションがされていない中で導入の旗が振られている。うちはやらない」。名古屋市の坪田知広教育長は制度に否定的だ。

坪田教育長によると、親と博物館などに行き、深い学びができる子がいる一方で、親がそうしたことに無関心なため、制度が使えない子も想定されるという。「ラーケーションを使ってこんなところに行ったと話せる子はいいが、与えられた権利を使えないことで自己肯定感を下げってしまう子も出るのではないかと、現場から懸念の声が上がってきている」

別の学校関係者も「制度は休んだ分の学習のフォローは自宅でやるということになっているが、親は当然、『学校がフォローすべきだ』となる。学校は今でも忙しいのに放課後にラーケーションを取った子のために補習タイムなんてできませんよ」と冷ややかだ。

休日を「親子による学びの場」と位置付ける制度の理念について、現役の小学校教員で教育評論家の岡崎勝さんは「家庭サービスが教育サービスになってしまい、親は大変だろう。可処分所得の多い家庭や、ゆとりのある働き方をしている家庭にはいいが、そうでない家庭は生活格差を自覚する制度になってしまう」と話す。

名古屋大大学院教育発達科学研究科の石井拓児教授(教育行政)は「家庭間で格差が出ず、貧困世帯も制度を使用できるよう旅行クーポンを配布するなど、きめ細かなサポートが大事だ」と指摘する。

学校現場からは「何を学びと判断したらいいのか」と戸惑いの声も出ているが、石井教授は「バーベキューでもキャンプでもいい。自分たちで火をおこすとか食材を切るとか、それらも学び。休日の過ごし方を細かく決める必要はなく、柔軟に運用した方が制度の趣旨に合っている」と話す。愛知県はラーケーションを全国に広げようと7月に国、経済界向けの提言書を取りまとめ、制度をアピールする予定だ。

今回の愛知県の取り組みについて、学校現場を所管する文部科学省初等中等教育局教育課程課の担当者は「学校の休みをどうするかについては自治体の判断。国としては推進もしないし、逆に止めもしていない」と現時点では静観の構えを見せている。

<毎日新聞 2023 年 6 月 14 日 夕刊 1 ページ>

問 あなたは愛知県が創設した『ラーケーション』のような休暇制度を推進すべきだと思いますか。それとも推進すべきではないと思いますか。最初に自分の立場(推進すべき、または推進すべきでない)を明確にしてから、その理由も含めて論じてください。(800 字以内)

以上

2024 年度 入学者選抜試験問題

国際学部

学校推薦型選抜（公募制）

小 論 文

注意

1. 監督者の指示があるまで、問題用紙を開かないこと
2. 解答はすべて解答用紙に記入すること
3. 監督者の指示に従い、所定欄に、受験番号・氏名を記入すること
4. 机上には筆記用具・消しゴム・鉛筆削り・時計および受験票以外のものを置かないこと

受 験 番 号	氏 名

次の課題文を読み、つづく 2 つの設問に解答してください。

<課題文>

コペンハーゲン市は、面積 86.2 km²、人口約 62.3 万人（2019 年）であり、シェラン島東部に位置している。コペンハーゲン市中心部から約 8km 南東に位置するカストラップ空港は、メトロの延伸によって中心部とつながり、アクセスが非常に良い。デンマークについてほとんど事前情報を持たず訪問したとしても、空港から中心部へ、さらに各方面へと各種交通機関を乗り継いで移動することにさほどストレスはない。空港や各駅構内、バス内、まちの随所に置かれている観光案内パンフレットや地図には、シンプルでコンパクトな都市構造と各種交通手段、路線図がわかりやすく示されている。

コペンハーゲン市といえば、歩行者天国のショッピングストリートであるストロイエ（Strøget）である。市庁舎前広場と観光客に人気の海辺沿いのニューハウン（Nyhavn）周辺とを結び、途中には数箇所の広場があり、縦横に魅力的な通りが交差し、特に夏季のハイシーズンには、世界各国からの観光客で通りは非常に賑わっている。

デンマークはデザイン大国としても有名である。機能や実用性を重視しながら、シンプルで美しくデザインされたプロダクトは世界中に熱狂的なファンを持つ。空港、中心市街地のカフェ、市庁舎等の公共施設のあちこちで、世界的に有名なデザイナーの家具や照明器具等、さまざまなデンマーク・デザインに触れることができる。住宅・都市政策、および各種都市計画事業においても、公共デザインの果たす役割は大きく、デザインに対する意識は専門家ばかりでなく、一般の人々の間にも深く浸透している。

国連が行った幸福度調査で北欧諸国は常に上位入りしており、2016 年に 1 位にランキングされたデンマークでは、「人生が辛い」と感じている人はわずか 1%ということが明らかになった。

なぜ、幸せだとデンマークの人々は自信をもって言えるのか。この類の調査では常にトップレベルなのはなぜなのか。高い税金を支払う代わりに、教育や医療等が無償であり、さらには、老後の生活の不安がないからなのか。

その答えは「ヒュッグ（hygge）」というデンマーク人独特の価値観によるものであろう。デンマークの人々は、自分にとって心地のよい空間で家族や友人たちと過ごすのんびりとした時間＝ヒュッグをととても大切にしている。この「ヒュッグ」という言葉で表現されるデンマーク人の価値観は、彼らのライフスタイルを豊かにし、それは都市空間の計画や設計に

も反映されている。

コペンハーゲン市は 10 の行政区に分かれている。それぞれにまちの特徴があり、たとえばノアブロ地区は、多数の移民が集住し、通りにも多国籍感があふれている。また、近年では、市南部のアマー地区、ノーハウン（北港湾地区）やシューハウン（南港湾地区）一帯において、メトロの新規路線、駅整備に合わせて住宅やオフィスビルの建設が急増している。

2007 年の地方自治体再編成によって、デンマークは五つの広域自治体（Region、レギオン）と 98 の基礎自治体（Kommune、コムーネ、市に相当）に区分された。コペンハーゲン都市圏（首都レギオン）は、面積約 2,568km²であり、デンマークの総人口約 581 万人の約 3 分の 1 にあたる 184 万人（2019 年）が集住している。コペンハーゲン都市圏は、コペンハーゲン市を含めて 29 の基礎自治体からなり、人口が最も多いのはコペンハーゲン市で、人口が最も少ないのは南部海岸沿いのドラウア市や西部のヴァレンスベック市で 1 万数千人程度である。コペンハーゲン市を除く 28 自治体の平均人口は約 4 万人であり、自治体規模は非常に小さい。

コペンハーゲン都市圏自体は、コペンハーゲン市を中心に今後も人口増加が予想されており、2045 年までには 211 万人に達すると見られている。魅力的な都市には企業も人々も集まるという考えが共通認識としてあり、都市圏全体の活性化に力を注ぐ。

ところで、コペンハーゲンとスウェーデン南部のマルメ市との間に、橋と海底トンネルからなるオアスン海峡橋が 2000 年に開通してから、コペンハーゲン都市圏が位置するシェラン島とスウェーデン南部とのつながりはいっそう増している。これら一帯は、「グレーター・コペンハーゲン（Greater Copenhagen）」と呼ばれ、国境を越えて、産業、文化、人々の交流を積極的に行っている。

一帯は、両国の 85 の自治体、約 430 万人が居住しており、北ヨーロッパを牽引すべく、両国の関係者が経済・ビジネス開発の議論を重ねている。生命科学、環境エネルギー、量子技術、IT やビッグデータ等の 12 分野を研究ビジネス開発のターゲットに据え、世界各国から企業や科学者を誘致している。

(a) 北欧の小国デンマークは、高度に成熟した民主国家として教育や社会福祉を充実させてきたことはもちろん、原子力発電の撤退に至るまで、さまざまな野心的な取り組みを実現してきた。環境政策では 1985 年に原子力発電から撤退し、2011 年には 2050 年に再生可能エネルギー 100%を目指す計画が策定されている。カストラップ空港に近い洋上に整然と並ぶ風力発電の風車を見ると、デンマークが未来に向けて都市居住環境づくりを着実に進

めるという意思が感じられる。

小国ながらも高い国際競争力を保ち、特に 1970 年代以降は、徹底した地方分権と利用者が政策策定過程に直接参加する「ユーザー・デモクラシー (Bruger Demokrati)」を発展させ、他の北欧諸国とは異なる独自の思想文化から、高度な社会福祉国家を形成してきた。

また、社会教育家ハル・コックは、戦後のデンマーク社会のあり方、根底に流れる民主主義を方向づけた。デンマークにおける民主主義とは、話し合い（対話）と相互理解、および他者に対する尊重に基づく。デンマーク社会では人と人は対等な関係にあり、会社や学校でも、上司と部下、先生と学生といった上下関係に縛られず、年齢、立場に関係なく、(b) 対等に対話が重ねられる。こうした対等な人間関係で構築される民主主義は、関わるステークホルダーの多い都市政策の現場においても重視されている。

(谷口守 編著 (2019)『世界のコンパクトシティ』 学芸出版社 より)

設問 1

下線 (a) 北欧の小国デンマーク について、同国の特徴がいつそう明確になるように、課題文を 350～400 文字で要約し、あなたなりの紹介文を作ってください。なお、同国の市・都市圏・首都であるコペンハーゲンを要約に加えてもかまいません。その場合でも、要約文は、デンマークの説明となるように工夫してください。

設問 2

下線 (b) 対等に対話が重ねられる という記述にかんして、あなたは対等に対話を重ねる社会の利点をどのように考えますか。これまでの経験や記憶に残っているエピソード、自分自身の理念やモットーなどの紹介も自由に加え、350～400 文字で説明してください。

2024 年度 文教大学 経営学部 学校推薦型選抜 公募制推薦 小論文問題

- ・ 解答はすべて答案用紙に記述してください。
- ・ 答案用紙および問題冊子について、受験番号および氏名は所定の欄に記入してください。
- ・ 試験時間は 60 分です。
- ・ 基本的に質問には応じませんが、印刷の誤り、落丁、乱丁の場合は、問題、答案用紙を取り替えますので、監督者に申し出てください。
- ・ この問題冊子は、試験終了後に回収します。

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(2023 年 11 月 19 日実施)

以下の2023年5月11日公開の東京商工会議所公開の「発達段階に応じたアントレプレナーシップ教育の推進について」の課題文を読み、つづく設問に答えなさい。

わが国の潜在成長率は2000年代に入り1%を大きく割り込んだまま低迷が続いている。少子高齢化に伴う就業人口の漸減も大きな課題となっている今、生産性向上はもとより、新たな価値創出の源泉である「人の力」の充実・強化が不可欠であることは論を俟たない。

AIを始めとするIT技術の大幅な進歩、気候変動など深刻化する環境問題、国際情勢の悪化など急激な社会環境の変化によって、先行きの不透明さも増している。これを乗り越えるためには、課題を発見し解決する意欲を持ち、新たな価値（イノベーション）を生み出していく力、すなわち「アントレプレナーシップ（起業家精神）」を備えた人材の輩出が求められ、これを意識した教育に取り組んでいくことが重要である。

その際に目指すべきアントレプレナーシップ教育は、必ずしも「起業家」を育てることを目的とするのではない。情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力といった能力や、チャレンジ精神、創造性、探究心といった心のありようを合わせた思考力と行動力を育む機会が子どもたちに与えられることが望まれる。

【略】

「アントレプレナーシップ」とは

○予測困難なこれからの時代に不可欠な「心のありよう」

新型コロナウイルス感染症の拡大や国際情勢の不安定化、情報技術の発達によるライフスタイルの急速な変化など、移り変わりの激しい予測困難な社会を生きていく上で、これからの個人には、周囲の意見や表層的な情報だけに囚われず、自らで生き方を判断し、変化に対応するための最適解を模索していくことが求められている。

また、わが国の労働市場は従来の日本型雇用システムから、ジョブ型雇用の導入が始まり、兼業・副業も広がりを見せるなど、働き方が多様化しつつある。人生100年時代を迎え、誰もがガリカレントやリスクリングといった学びを含め、職業や自己実現に向けた多様なキャリアをより長期で主体的に考える必要性も高まっている。

旧来型の社会モデル、家族モデル、ひいては「生き方モデル」が、必ずしも一般的な幸せに結び付かないと思われるこれからの時代に求められるものを探り出さねばならない。

全国の商工会議所を対象に実施した調査では、わが国の将来を担う若い世代に強く必要とされる能力として、実行力、主体性、創造力、発信力、課題発見力といった力が挙げられた。政府の「第4期教育振興基本計画」においても、同様の指摘がなされている。

ここに挙げられているのは、情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力等の「起業家的資質・能力」であり、とりもなおさず、チャレンジ精神、創造性、探究心といった心のありようを合わせたものが「アントレプレナーシップ」なのではないか。そして、それはイノベーション人材に必要な力そのものであり、あらゆる地域・業種・職種において求められているものでもある。

○アントレプレナーシップ教育が目指すもの 「心のありよう」を培う教育である

「アントレプレナーシップ教育」が目指すものは何か。それは、小・中学校段階から発達段階に合わせた学びを通じて、急激な社会環境の変化を受容し、新たな価値を生み出していく精神を備えたイノベーション人材を創出していくことにある（図1）。

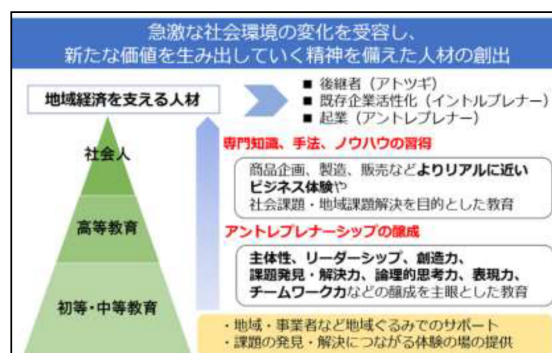


図1 アントレプレナーシップ教育が目指す人材創出(事務局作成)

日本のアントレプレナーシップ教育について、国際的な評価は小中高等学校で 22 か国中 20 位と低く、また小中高等学校と大学以上との評価の差が大きく開いている（図 2）。

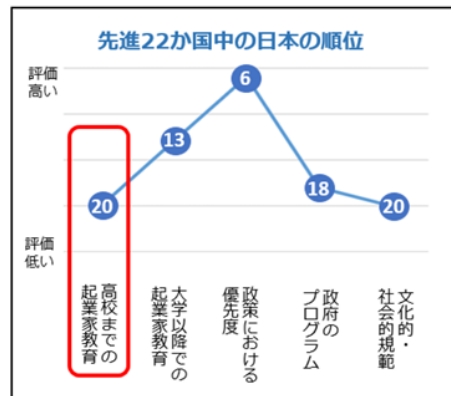


図2: 日本のアントレプレナーシップへの評価
出所: グローバル・アントレプレナーシップ・モニター
調査(2022年)を基に事務局作成

また、イノベーション人材にとって必要な「挑戦する力」について、世界6か国の若者へ実施した調査結果では、自国や自身の将来などに関する全ての質問項目で日本は最下位であり、リスク回避傾向が強く見られた（図 3）。



図3: 若者のリスク許容度
出所: 日本財団「18歳意識調査第46回「国や社会に対する意識」(6カ国調査)」(2022年3月)

「基礎的資質や心のありよう」は年少期から築いていくものであり、子どもたちがそれらを会得する場として「家庭」「学校」は大きな役割を果たしているが、現代における急速な変化に柔軟かつ適切に対応する力を、従来の枠組みだけで培うことは困難となっている。家庭や学校を支える地域ぐるみの活動により、様々な体験の場を活用したアントレプレナーシップ教育を提供することが、予測困難な社会に適応する力の育成につながる。折しも、2020年度に改定された学習指導要領では、改めて、子どもたちが自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく「生きる力」を学校での学びを通じて育むことの必要性が謳われている。まさにアントレプレナーシップの涵養と共通する部分が多く、具体的推進を求めたい。

【設問】

課題文の「発達段階に応じたアントレプレナーシップ教育の推進について」（抜粋）の内容を参考に、あなた自身が身につけたい「アントレプレナーシップ」と、文教大学経営学部のアドミッション・ポリシーをすり合わせ、経営学部入学後にあなた自身が、実際に身につけていく「アントレプレナーシップ」のイメージを800字以内で述べなさい。

※ 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

経営学部では、次のような学生の入学を期待しています。

1. 文教大学の「人間愛」の理念のもとで、社会のより良き一員として生きていくための基盤的な能力や人格を着実に修養し、そのうえで経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を多面的に効果的に活用できる人
2. 経営活動において人を核心とする思想と手法を統合し、「人間尊重の経営」を具現化できる人
3. 基礎学力と学修意欲を有していることはもとより、大学の理念や学部の目標について理解し共鳴できる人

学んできてほしい内容

1. 基礎学力と学びへの姿勢
高等学校における教科を着実に学び、基礎学力を修得しており、学ぶことの面白さや学ぶ習慣を身につけている。
2. 求められる能力にかかる基礎の修得
コミュニケーション能力、論理的思考力、総合的判断力、そして的確な表現力は、経営学部での専門的な学修を深めるために不可欠となる。高等学校での各教科の学習を通じて、こうした能力の基礎が修得できている。
3. 主体的な思考と他者との協働
経営学部の教育では、学生と教員、あるいは学生同士の対話と協働によって、高度な思考力や卓越した創造性を錬磨させていく。主体的に思考し行動しながらも、他者を尊重し多様な人々と協力していこうとする態度が身についている。
4. 社会の一員としての意識
自分の人生や進路について真剣に考えるとともに、社会のさまざまな出来事に対して問題意識を有している。

問題は以上です